

徳島県鳴門市大麻町にある「板東俘虜収容所跡」は、今からおよそ百年前、第一次世界大戦中に千人あまりのドイツ兵捕虜が約三年の年月を過ごした施設の跡地です。

鳴門市教育委員会が行った現地調査によって、収容所跡に当時造られた建物の基礎遺構が数多く残ることが明らかとなりました。また、当時の収容生活を裏付ける膨大な資料は、鳴門市ドイツ館などに残されています。こうしたことから、その貴重さが評価され、平成三〇年一〇月一五日、徳島県内では初めて、戦争関連遺跡として国指定史跡に指定されました。

シンポジウムでは、収容所跡の概要を紹介した上で、近代史におけるドイツ兵俘虜収容所の歴史的背景や史跡化の意義について知見を深めるとともに、収容所内外で捕虜により行われた様々な活動を概観して「奇跡の収容所」と呼ばれた「バンドー」の実像に迫ります。

さらに、収容所跡の歴史的価値について認識を深めつつ、国内だけでなく、世界に発信できる文化遺産として、その活用について議論します。



松江豊壽 所長

板東俘虜収容所跡「国指定史跡」指定記念シンポジウム

- 開会行事 13:00~13:15

あいさつ 泉 理彦(鳴門市長)

- 報告 13:15~13:40

「板東俘虜収容所跡の内容について」

下田 智隆(鳴門市教育委員会生涯学習人権課副課長、学芸員)

- 講演① 13:40~14:30

「史跡・板東俘虜収容所跡が開く歴史の扉
・近代の遺跡の豊かな可能性について・」

有馬 学(福岡市博物館長、九州大学名誉教授)

- 講演② 14:40~15:20

「板東俘虜収容所における文化活動とその記録について」

川上 三郎(元鳴門市ドイツ館長、徳島大学名誉教授)

- パネルディスカッション 15:30~16:30

「板東俘虜収容所跡の歴史的価値と文化遺産としての活用を考える」

コーディネーター 森 清治(鳴門市ドイツ館長)

パネリスト 有馬 学・川上 三郎・山下 信一郎(文化庁文化財第二課主任文化財調査官)

早淵 隆人(徳島県教育委員会教育文化課課長補佐)・下田 智隆

- 閉会行事 16:30~16:40

あいさつ 安田 修(鳴門市教育委員会教育長)



▲アクセスマップ▲